

黒川能の里王祇会館 - 紹介解説文

山形県鶴岡市の中心部には、日本の舞台芸術の豊かな伝統があります。黒川能は、500年以上にわたって黒川で上演されてきました。もともとは美学者、俳優、劇作家の世阿弥(1363～1443)が成功を収めた猿楽の流れに基づいています。

黒川能は能の伝統的五行派に似ているものの、独自の特徴があります。

黒川能は、単なる地元の文化の一部ではありません。黒川にある神社、春日神社に祀られている神のために行われます。演者はプロではありません。そのほとんどが農民であり、全員が神社の教区民から選ばれています。すべて男性で構成される座は、この文化的資産を代々受け継いできました。

能が黒川に来た経緯は定かではありません。後小松天皇の三男がこの地区に芸術を紹介したという言い伝えがあります。

14世紀には、この地方の大名であった武藤家が公演を支援しました。その後、この地域を統治することとなった最上家もこの芸術を後押ししました。

1622年に徳川幕府から藩主に任命された酒井家も強力な支持者となり、彼らは明治時代に黒川能を支え続け、黒川能という芸術形態が大きな成長を享受することに貢献しました。

1976年黒川能は重要無形民俗文化財に指定されました。

黒川の地で一年を通じて開催されるお祭りは、どれも黒川能と関係しています。主な公演は2月の旧暦に来年の平和と豊作を祈願する「王祇祭」です。そして毎年2回の特別公演も開催されます。10月中旬に「蠟燭能」、8月に「水焰の能」が開催されます。

センターの利用について

(1時間あたりの使用料)

多目的ホール:1,050円 視聴覚室:520円

研修室1:520円 調理室:520円

研修室2:520円 その他施設:520円

暖房・冷房を使用すると、20%の追加料金が発生します。

利用可能時間:午前8時30分から午後9時30分

(センターパネル)

黒川能の里王祇会館では、黒川能を直接体験することができます。能面や衣装の展示は、芸術の形を生き生きとさせ、その豊かな歴史、背景、伝統への洞察を提供します。

訪れる人はまた、この村の歴史について学び、コミュニティとの交流を楽しむことができます。

バックパネル

(左パネル)

黒川能の公演イベント:

3月23日-春日神社祈禱祭

午前10時から

5月3日-春日神社年次祭

午前10時から

7月15日-羽黒山花まつり

午前10時から

8月-水焰の能

午後6時から

10月-蠟燭能

午前12時から

11月23日-春日神社新嘗祭(収穫祭)

午前10時から

2月1日～2日春日神社王祇祭

初日は午後6時から

2日目は午前9時から